

2005年12月14日

「ほくれん丸」、「第二ほくれん丸」の代替新造船投入の件

此度、川崎近海汽船株式会社は2006年夏を目途に現在釧路/日立航路に就航の「ほくれん丸」、「第二ほくれん丸」を代替の上、最新鋭大型高速 RORO 船2隻を投入、同航路の増強を計り主要荷主であるホクレン農業協同組合連合会殿、ホクレン運輸株式会社殿をはじめ、ご利用顧客へのサービス向上を図って参ります。就航時期につきましては新造第1船「ほくれん丸」(新造船々名)は2006年6月末、新造第2船「第二ほくれん丸」(新造船々名)につきましては2006年8月初旬を予定しております。

ご既承の通り、1993年7月就航の現「ほくれん丸」は当時のホクレン農業協同組合連合会殿による将来の生乳道外移出量の増加に伴う安定輸送を担う輸送手段として、弊社が提案した最新鋭高速 RORO 船の投入により「釧路港/日立港間を20時間で結ぶ、安定的かつコスト競争力のある生乳輸送」が実現致しました。以来、生乳の首都圏への3日目配送をより安定したものにす為、更にその4年後の1997年6月に「第二ほくれん丸」が就航、2隻体制による日曜日を含む完全デイリーサービス体制を確立し、北海道産生乳輸送システムを構築致しました。更に本船2隻の就航により、紙製品、水産品、農産物、その他日常雑貨等の輸送も拡大し、現在では道東/首都圏を結ぶ海の大動脈として今日まで発展して参りました。

弊社は、予てよりホクレン農業協同組合連合会殿、ホクレン運輸株式会社殿と高性能な最新鋭大型高速 RORO 船2隻の建造を提案、長期間に亘り検討を重ねて参りましたが、此度、新造船2隻を同時期に投入する事で尚一層の本航路の飛躍発展を図るべくホクレンご両社によるご承認を得、本計画を決定したものであります。

弊社は、今後も引続き安全運航の推進に努めると共に利用顧客へのサービス向上を図る為、全社一丸となり最善の努力を傾注して行く所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

本件に関する御問い合わせ先

川崎近海汽船株式会社 内航定期船部長 池田 強 TEL/03-3592-5842

新造「ほくれん丸」「第二ほくれん丸」船舶要目表

(ALL ABOUT)

	新造船	現行「ほくれん丸」
全長	173m	154m
幅	27m	21m
計画喫水	6.6m	6.6m
総トン数	14,000ト	7,100ト
車両積載能力		
9m車	173台	133台
12m車	130台	100台
乗用車	64台	なし
航海速度	23.5ノット	23.5ノット
主機関	8気筒 低速エンジン	16気筒V型中速エンジン
出力(最大)	17,800kw	26,400PS
減揺装置		
フィンスタビライザー	装備	なし
減揺タンク	装備	装備
車両荷役設備		
ランプ強度	船尾:75ト 船首:60ト	45ト
ランプ幅(オモテ)	7m	5m
(トモ)	7m	6m
倉内斜路(可動)	2基	なし
(固定)	1基	なし
カーゴリフター	なし	1基
冷凍電源設備		
220V	90口(同時使用80口)	50口
440V	6口	10口
デッキハイト		
Aデッキ	4.20m	4.00m
Bデッキ	4.30m	4.20m
Cデッキ	4.20m/2.50m	4.20m
Dデッキ(乗用車)	2.20m	-